

第2回ソフトマター物理若手勉強会報告

A04 班 山口哲生

2008年8月21日(木)・22日(金)の2日間、東京大学農学部弥生講堂・一条ホールで「第2回ソフトマター物理若手勉強会」が開催されました。全71名の参加者のうち学生の参加者は49名で、文字通り若手中心の勉強会となりました。

1. 研究発表

研究発表では、口頭9件、ポスター32件の発表がありました。特に、口頭発表は全て学生(修士2、博士7)によってなされました。口頭発表は1名につき30分(質疑応答を含む)、ポスター発表では2時間30分の時間を取ったこともあり、十分に議論することができました。



招待講演でお話される川崎先生

招待講演では、九州大学名誉教授の川崎恭治先生が「相転移におけるパラダイムシフトとモード結合理論」という題目でお話されました。相転移現象においてランダウ理論がパラダイムの大きな変換をもたらしたことや、モード結合理論が提案された経緯などを、ご自身の経験を踏まえて分かりやすく解説されました。質疑応答では、講演内容のみならず、川崎先生の研究者としての生き方にまで質問が及びました。

2. 懇親会

初日の講演終了後、工学部6号館屋上テラスに移動して懇親会を行ないました。通常の食事や飲み物のサービスだけでなく、流しそうめん大会も行なわれました。途中雨が降り出したためやむなく室内に避難するなどのハプニングもありましたが、参加者間の交流を深める良い機会となりました。

3. さいごに

これからのソフトマター物理を担っていくうえで、優秀でやる気のある若手に研究を続けてもらうことが重要であることは言うまでもありませんが、しかしながら通常の研究会では若手が研究成果をアピールする機会はあまりなく、今回の勉強会はそういった意味で重要な役割を果たすものだと思います。今後もこのような勉強会を継続していくことを望みます。

謝辞

今回の勉強会に対してご支援頂きました、太田先生、好村先生、土井先生、奥菌先生、および、勉強会・懇親会の準備に協力頂きました、首都大学東京の相澤さん、(株)ポラリスの笹部さん、岩佐さん、土井・奥菌研の学生の皆さん、および秘書の最上さんに感謝申し上げます。また、講演を快くお引き受け頂きました、川崎恭治先生に厚く御礼申し上げます。



ポスター発表の様子